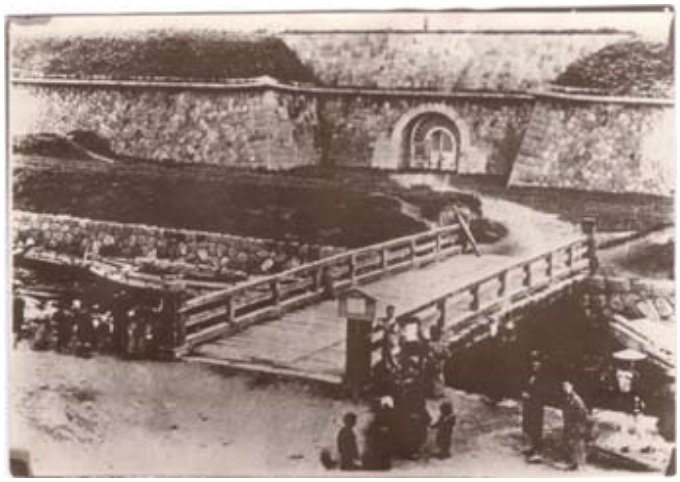
箱館奉行所と函館開港（その 4）

中尾 仁彦

箱館歴史散歩の会主宰、第1回 函館検定 上級試験合格、ＮＨＫラジオ「どどんと道南ラジオ」に月１回レギュラー出演中。著書「箱館はじめて物語」（まちセン内 cafe Drip Drop で絶賛好評発売中）

写真：函館山山麓付近から見た弁天岬台場
（函館市中央図書館所蔵）



写真：弁天岬台場の入口付近
（函館市中央図書館所蔵）

弁天岬砲台築造

五稜郭築造と同時に、箱館奉行は箱館港周辺７カ所に台場の構築を幕府に願い出ます。しかし、予算の関係上、弁天岬台場のみ工事が認められました。弁天岬台場は五稜郭より１年早い 1863（文久 3）年に完成します。面積は五稜郭の７分の１ですが、総工費はほぼ同額の工事費 10 万両で、五稜郭にはないアーチ式入り口を設け、箱館山の石と大阪から運んだ岡山の石を利用して、15 から 16 門の大砲が設置されました。工事に携わったのは、五稜郭と同じ武田斐三郎、松川弁之助、備前喜三郎です。

箱館港内の船舶航行に支障をきたすとして、1896（明治 29）年に台場は解体されます。担当した北海道大学の広井勇博士は、隅に鉄筋を入れるなどしていた斐三郎の技術力を高く評価しました。

箱館奉行所開設

1864（元治元）年、箱館奉行の小出秀実（ひでみ）が元町の奉行所を移転させ、業務を開始しますが、最終工事は 1866（慶応 2）年までかかりました。しかし、実際は元町から５キロも離れた不便な五稜郭に役人が引っ越しをしたがらず、元町の旧奉行所を出張所扱いにして一部事務をとっていたそうです。

写真：五稜郭内に建つ箱館奉行所
（市立函館博物館所蔵）

武田斐三郎は完成を見届けることなく江戸へ戻り、訪ねてきた新島襄とは行き違いとなります。襄が澤辺琢磨の手助けでアメリカへ密航するのは、この後の出来事です。

結局、五稜郭の箱館奉行所は明治維新までのわずか４年間しか使用されず、1868（明治元）年、江戸幕府最後の箱館奉行・杉浦誠から明治新政府の箱館裁判所総督（後の府知事）清水谷公考に業務が引き継がれます。実際の事務引き継ぎは、不幸にも京都で暗殺された坂本龍馬の家系を絶やさないために、明治政府の計らいで家督を相続した坂本直（当時の名前は権判事・小野淳輔）が行いました。

「函館観光情報サイト hakobura」より転載